

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成27年度終了評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
79GHz帯等を用いた移動通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・79GHz帯高分解能レーダを含む無線システム技術を国際標準に反映させることで、我が国の電波資源の有効利用に貢献しており、有効であったと判断する。 ・ITS無線システム技術(79GHz帯、700MHz帯)の国際標準化に寄与したと考えられる。 ・当初の目標通り活動し、十分に成果が得られており、連絡調整事務として十分に機能した。 	4.2
次世代移動通信の国際協調に向けた国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・移動業務への追加分配及びIMT向け周波数の特定を行った。また、WP5D札幌会合を開催するなど国際競争力の強化にも貢献した。 ・当初の目標を概ね達成しており、今後の実施計画・実施体制については妥当と認められる。 ・次世代移動通信技術の国際標準化を推進する活動を通じて、成果目標だけでなく日本が使用及び使用を予定しているIMT用周波数帯がグローバル特定あるいは他国・他地域で追加特定され、当該周波数の国際的な価値向上につなげることができたことより、本件は我が国の周波数政策の推進に大きく貢献したと考えられる。 	4.0
ミリ波帯を用いた高速移動体の大容量無線通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-R、APT及びICAOにおいて航空分野に関する文書入力、発表、説明等を行い、十分な成果を収めたと判断する。 ・ICAO加盟国との協調を引き続き進めることが今後の展開を図る上で重要と考える。 一方、鉄道に関しては、アジア諸国への新幹線の売り込み状況を見ると、暫定報告書は事例を列挙したものに留まる可能性が高く、さらなる調整努力が必要になると思われる。 ・40GHz帯を用いた高速移動体向け大容量無線通信技術について、ITU-Rでの国際標準化を達成するとともに、APTにおけるアジア地域の標準化及びICAOでのアプリケーションやニーズの拡大に寄与した。以上のことから終了案件として十分な成果をあげたと認められる。 	4.1
固定無線アクセス技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策向け可搬型FWSシステムなど我が国の技術がITU-R勧告に反映されたこと等の成果は評価できる。 ・今後の固定無線システム関連製品の展開に向けたPRの努力を引き続き行うことが重要と考える。 ・日本の先進性を確保する上で、種々の調査と国際標準化活動が行われたことは、評価できる。 	4.1
戦略的な国際標準化に向けた先進的技術の動向把握のための国際機関等との連絡調整事務	H26-H27	<ul style="list-style-type: none"> ・APT AWGにおいては会合へ積極参加するだけでなく、5Gワークショップを開催することで5G導入に向けたアジア・太平洋地域内の共通理解が醸成され、国際標準化に向けて我が国の提案が入力されることが決定しており、十分な成果が得られていると判断する。 ・EV用WPTをCISPRで議論するにあたり、H28年度も85kHz帯を基本周波数として特定するための活動を継続するとあるが、どのように継続するのが若干不明確に思われるが、概ね当初の実施項目が達成されているであろう。 ・個別の会合状況をまとめるだけでなく、ワイヤレス給電、海洋レーダ、公共救援の各技術に関して、各国の立場・対応はどのような状況にあるのか、分かりやすく整理しておくことが今後の戦略を立てる上で必要と考える。 	4.3